

利用・用途・応用分野

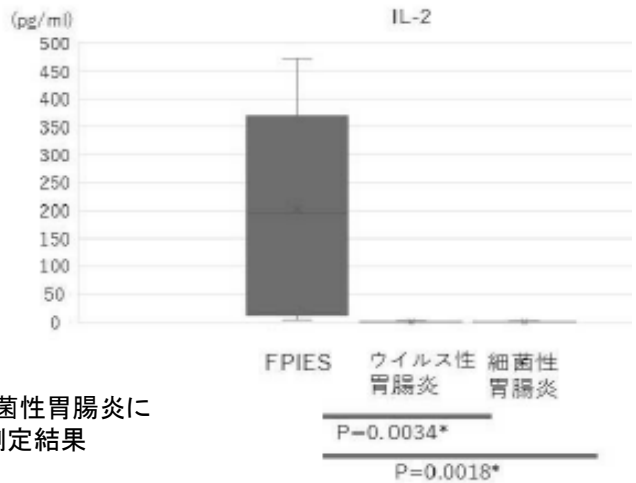
小児科診断 新生児乳児消化管アレルギーと他疾患の鑑別

目的・課題

新生児-乳児消化管アレルギーは近年増加しており、疾患の病態は、十分に解明されていない。急性期に嘔吐をきたす他の疾患を鑑別するバイオマーカーの報告はなく、一般には、嘔吐や血便の新生児・乳幼児が来院すると、頻度として多い胃腸炎を疑い、場合によっては消化器アレルギーを疑う。血液検査では炎症反応の非特異的上昇を示すのみで鑑別に有用な血液検査項目は見いだされていない。
新生児-乳児消化管アレルギーを簡便に検査する新たな方法を提供することを目的とする。

解決ポイント

- ◆急性期の新生児乳児消化管アレルギー(FPIES)と胃腸炎の鑑別には、血清中のIL-2、IL-10の存在(プロファイル)を確認する
- ◆新生児-乳児消化管アレルギー診断のためのデータ収集として、被験者から採取した生体試料中のIL-2及びIL-10タンパク質レベルを測定する。
- ◆抗IL-2抗体、及び抗IL-10抗体を含む、新生児-乳児消化管アレルギーの診断用キットを作製する。



FPIES、ウイルス性胃腸炎、及び細菌性胃腸炎における血清中のIL-2濃度 (pg/ml) 測定結果

研究概要・アピールポイント

- ◆食物負荷試験を行うことなく、新生児-乳幼児の消化管アレルギーか否かを非侵襲的に診断するためのデータを収集することが可能となる
- ◆簡便な方法であるためアレルギー専門施設以外においても迅速な診断が可能である

◆ お問合せ先 ◆

有限会社山口ティール・エル・オー TEL: 0836-22-9768 E-mail: tlojim@yamaguchi-u.ac.jp